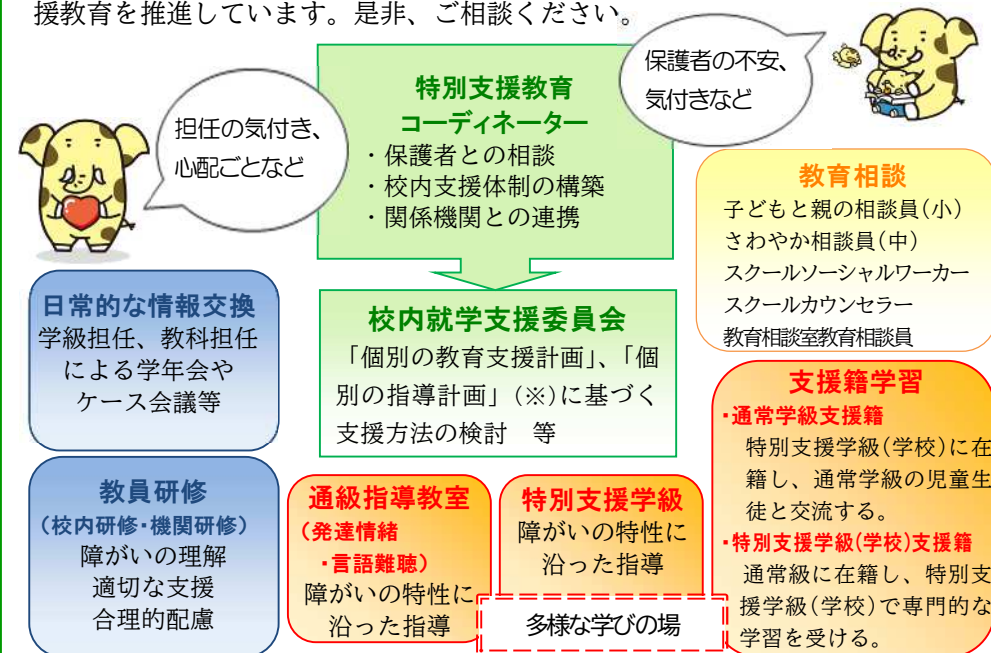


市立小・中学校の支援体制

- 全ての学校に、「特別支援教育コーディネーター」と呼ばれる教員がおり、特別支援教育を推進しています。是非、ご相談ください。



※個別的教育支援計画…長期的な視点で学校卒業までを通じて一貫した的確な支援を行うために、(教育支援プランA) 教育・福祉・医療等の関係機関が連携して支援するための計画

※個別の指導計画……障害に応じたきめ細かな指導・支援を行うために、指導目標・内容・支援方法を盛り込んだ学校における指導・支援の計画(教育支援プランB)

教育委員会では、「共に育ち、学ぶ」環境を整備し、発達障がいなどの特別な配慮を必要とする児童生徒を支援するため、次のような取組を行っています。

気 付 く 巡回相談カウンセラー(大学教授、臨床心理士等)による行動観察と保護者の方、教員への助言

相 談 す る 新座市就学支援委員会による障がいの種類、程度等の状況を踏まえた就学相談の実施

多様な学びの場 通級指導教室・特別支援学級の設置(※)、支援籍学習の実施

支 援 す る 特別支援教育支援員・介助員の配置

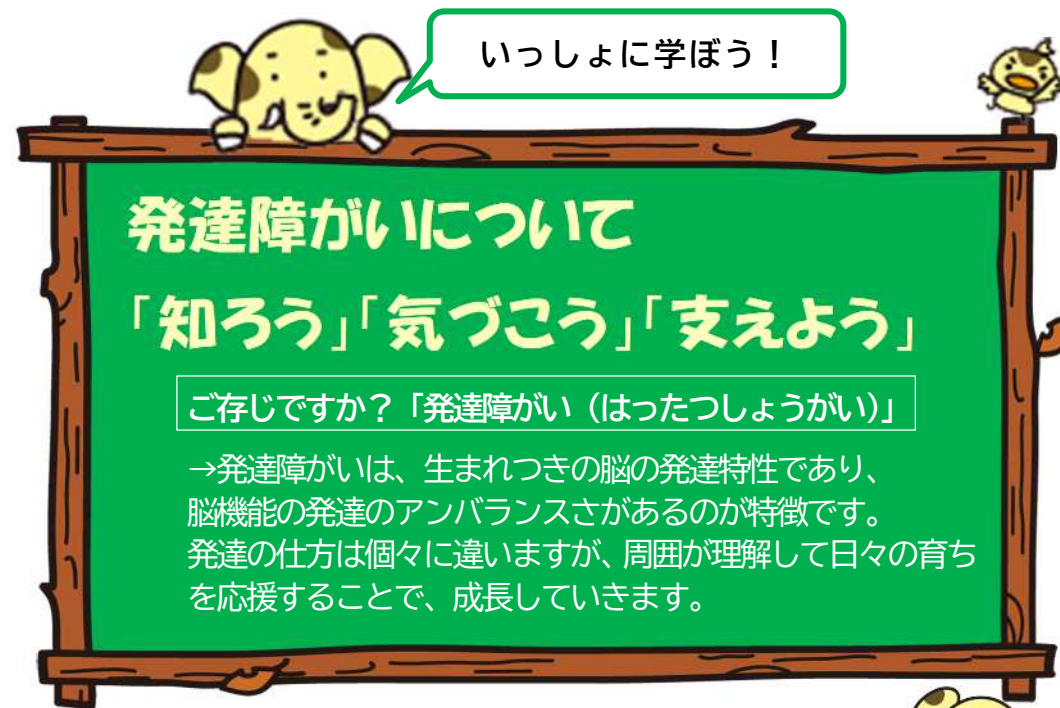
特別支援教育については、他にもさまざまな取組を行っています。詳しくは教育支援課、または在籍する学校までお問い合わせください。

※通級指導教室、特別支援学級で学ぶためには、就学支援委員会における就学相談が必要となります。

新座市教育委員会学校教育支援課
お問い合わせ 048(477)7142

※教育相談センターは、令和8年4月より、教育支援課になりました。

新座市発達障がい啓発リーフレット



子供たちの様子で、こんなことはありませんか？

©新座市2010

集団の場面で

- ルールのある遊びが苦手である。
- 思い通りにならないと手がでてしまう。
- 順番が待てない。
- 一人で遊んでいることが多い。 など

生活の場面で

- 身の回りの整理整頓が苦手である。
- 思ったことを何でも、すぐに言ってしまう。
- じっとしてられない。
- 大きな音やざわざわした人混みが苦手。 など

学習や運動で

- 集中力にムラがあり、気が散りやすい。
- 文を読むのが極端に遅かったり、読み書き計算の誤りが多い。
- 個別に声をかけないと理解できない。 など

こうしたことは、子供の性格だったり、発達の過程でみられることであったりもします。しかし、程度が強いと、発達障がいの症状である場合があります。

新座市教育委員会

発達障がいとは？

LD（学習障がい）

全般的な遅れはありませんが、

- ①聞く ②話す
- ③読む ④書く
- ⑤計算する ⑥推論する

これらの能力のうち、特定のものの習得と使用に著しい困難が見られます。

ADHD（注意欠陥多動性障がい）

年齢に不釣り合いな、

- ①不注意（集中できない）
 - ②衝動性（考えるよりも先に動く）
 - ③多動性（じっとしてられない）
- を特徴とする行動がみられ、日常の学習や生活場面で支障をきたすような行動が見られます。

自閉症スペクトラム障がい

- ①社会的なコミュニケーションや他の人とのやりとりが上手く出来ない
 - ②興味や活動が偏る
- といった特徴があります。自閉症、広汎性発達障がい、アスペルガー症候群などと呼ばれていましたが、自閉症スペクトラム障がい（ASD）と表現するようになりました。

発達障がいは、

- ・LD（学習障がい）
 - ・ADHD（注意欠陥多動性障がい）
 - ・自閉症スペクトラム障がい
 - ・その他これに類する障がい
- をさします。特徴が、それぞれ少しずつ重なり合っている場合も多くあります。

○月△日□曜日



しつけや育て方が原因ではないんですね。

知的な遅れを伴うこともあります。

参考・厚生労働省HP：「発達障害の理解のために」
・文部科学省HP：特別支援教育について「主な発達障害」
・DSM-5（アメリカ精神医学学会 精神疾患の分類と診断の手引き）



子供の健やかな成長のために

苦手と思われることも、見方を変えると長所になります

- 常識にとらわれない発想や行動力はプラスのエネルギーに変えると素晴らしい力を発揮します。自分に合った得意なやり方で学ぶことが成長の秘訣です。
- 大事なことは、その人がどんなことができ、何が苦手なのか、どんな魅力があるのかといった「その人」に目を向けることです。そして、その人その人に合った支援があれば、だれもが自分らしく、生きていけるのです。

心の育ちを支えましょう

- 子供の好きなことや苦手なことを知り、好きなことを活かして「やってみたい」「できるんだ」という気持ちを育てます。
- たたいたり、どなったり、追いつめたりして叱るのは逆効果です。

こわい声を聞くとかパニックになるよ。落ち着いた口調で話してね。



わかりやすい対応をしましょう

- 写真や絵など、目で見て分かる方法で説明しましょう。
- 具体的に伝えましょう。
例1：「ちゃんとして」→「上着をズボンの中に入れよう」
例2：「ちょっとまって」→「5分待って」
- 肯定的に伝えましょう。例：「走らない」→「歩こう」
- 本人が納得できる説明をしましょう。例：「～だから、～しようね」

よく動いているときは、話しかけても耳に入らないよ。そっと体に触れながらして注目させてね。



まちの中で見られる行動への誤解

「キーキー声を出す子供やパニックは迷惑だから、外出させない方がよい」
「発達障がいの子がパニックを起こしたら、大勢で協力して止めにくいのがよ

- 発達障がいの子も、家に閉じこもるだけでなく、社会で様々な行動の仕方やルールを学びます。発達障がいの子供が騒いだり、パニックを起こしたりしているときに「何で親は厳しく叱らないんだ」とイライラするより、少しの時間待ってあげる方が、無理に叱るよりもずっと早く混乱から抜け出すことができます。
- パニックの際、手伝って貰うと家族は助かりますが、沢山の人が一斉に近づくことは逆に興奮させてしまうこともあります。上手に発達障がいの子の混乱に対応できなくても、「発達障がいの子のパニックだ。そのうち落ち着くだろう」と知識を持っていてくれるだけで、本人も家族も楽になります。

学校との連携を深めましょう。

- 学校での様子を知るため、授業参観や行事には積極的に参加し、集団の中でのお子さんの様子を見るようにしましょう。
- 個人面談など担任と話す機会には、気がかりなことを遠慮なく相談しましょう。
- 学校と家庭でお子さんの様子が異なる場合は、本人を取り巻く環境の違いに着目し、その違いについて共通理解を図るようにしましょう。